

学会からのメッセージ

「おもちゃーエコのめばえ」

2011.3.11以降、私たちの学会では東日本大震災の災害廃棄物問題が大きなテーマとなった。多くの人々が被災地に向った。

被災者の助けになろうとして、また自治体や国の

施策への学術的な課題に立ち向う

ために。そして学会は2012年5月に、

「災害廃棄物分別・処理実務マニュアル」を発刊している。

この中に「貴重品・思い出の品」の項目がある。

現地で災害対策を行う

優先順位は生存者救助、行方不明者の搜索、

住民の公衆衛生問題

(水、食料品、トイレ等)、

インフラ整備…そして

最後に災害廃棄物の処理。

「思い出の品」は生活した人々の生々しい事実をつきつけ

る。子供たちが使っていたであろ

う人形やおもちゃなどをみると、自らの

過去や自らの子供が使っていたものを思い出し、

人の命の尊さ、有難さを感じさせ、亡くなった人への追憶を

引き出すのではないだろうか。

人が命を受け、大人になる過程で、さまざまなものに出会う。最初

に出会うのがおもちゃかもしれない。おもちゃに育まれて大きく

なる。少し大きくなって、自らが遊ぶおもちゃ。そして

いっぱい集めたフィギュアやおまけは「私」

だけの大事な宝物。かたや、知育と

して学ばせるおもちゃの系列が

ある。大人になっても、い

ろいろなゲームは楽しい。

おもちゃは物理的にまた

精神的に成長するため

に不可欠なもの・道具

といえる。大人や社会

を学ぶための教育的な

役割をもつ一方で、お

もちゃは「もの」でもある。

買って使って捨てるモノ、

潜在的なごみでもある。その

行方は？環境にやさしいエコ

なおもちゃってあるの？“いのち”

を内在するおもちゃを長生きさせるには

どうする？

私たちの身近にある“もの”から廃棄物を考える旅を企画しました。今回は「おもちゃ」が題材です。



イラスト：横山宇加
©uka.Yokoyama